

原子力発電所では、万が一の重大事故に備えた訓練を繰り返し行っています



原子力発電所において、
万が一の重大事故等が発生した場合に、
あらゆる事象に速やかに対応するため、

緊急時の体制や手順を整備し、

さまざまな訓練を繰り返し行っています。

【主な訓練の例】

- 電源の供給訓練
- 冷却水の供給訓練
- 放射性物質の拡散抑制訓練
- 住民避難のための通報連絡訓練
など



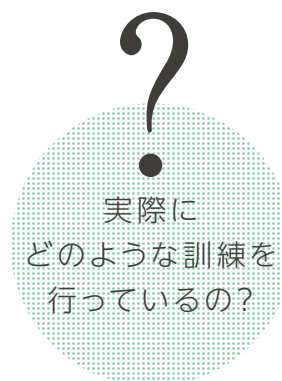
放射性物質の拡散抑制訓練(放水砲の設置)

■川内原子力発電所の重大事故対策要員

勤務時間外や休日(夜間)でも、重大事故が発生した場合に速やかに対応するため、発電所やその近くに、一班52名の対策要員等を常時確保する宿直体制を整備しています。

区分	人数	
緊急時対策本部要員	4名	52名
運転員	12名	
重大事故等対策要員	36名	

※玄海原子力発電所の重大事故対策要員の宿直体制についても整備していきます。



実際に
どのような訓練を
行っているの？

詳しくは裏面へ

原子力発電所では、万が一の重大事故の発生に備えた訓練を繰り返し行っています。

電源の供給訓練



電源ケーブルの運搬



電源ケーブルの敷設(屋内)



中容量発電機車の電源ケーブル接続

冷却水の供給訓練



可搬型ディーゼル注入ポンプの設置



海水を取水する水中ポンプの設置



ホースの敷設

放射性物質の拡散抑制訓練



放水砲の設置



放水砲による放水

消防訓練(専属消防団)



敷地周辺での森林火災を想定した訓練

県が主催する原子力防災訓練に参加し、原子力防災組織が有効に機能することの確認や防災対策の習熟を図っています。

県主催の原子力防災訓練(玄海原子力発電所)



当社本店と発電所の緊急時対策本部との通報連絡訓練



冷却水の供給訓練

2015年1月に、玄海原子力発電所の重大事故の発生を想定して、佐賀県、長崎県及び福岡県による原子力防災訓練が行われました。

当社は、住民避難のための通報連絡訓練や、重大事故に対応するための電源や冷却水の供給訓練等を実施しました。